

京都工業会 ニュース

基本理念

—21世紀を担うモノづくり集団—

京都からモノづくりイノベーション

2010 No.364

第42回 通常総会を開催

新会長に服部重彦氏を選任

5 / 21

5月21日(金)、京都東急ホテルにおいて、第42回通常総会が会員百数十名の出席のもと、京都府・京都市をはじめ関係諸機関より多数のご来賓の臨席を得て、盛大に開催された。

最初に、矢嶋英敏会長の開会挨拶が行われ、続いて来賓を代表して太田 昇京都府副知事(京都府知事代理)・門川大作京都市長より祝辞が述べられた後、矢嶋会長を議長に選任し、議事に入った。

当日の議案は次の通り。

第1号議案：第42期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)事業報告及び収支決算承認の件

第2号議案：第43期(平成22年4月1日～平成23年3月31日)事業計画及び収支予算決定の件

第3号議案：役員任期満了に伴う改選の件

第1号議案については、まず黄瀬専務理事が事業報告の全般について説明。続いて、総務委員会・戸成洋二委員長、企画委員会・宮川博司委員長、技術・教育委員会・太田 稔委員長、中堅企業委員会・砂崎進一郎委員長、中小企業委員会・岡本光三委員長、環境委員会・木村 勇委員長、広報委員会・谷垣哲也副委員長より、各委員会の開催した事業について説明が行われた。また黄瀬専務理事より、収支決算について説明がなされた。そして監事5名を代表して小田 明監事から会計監査の報告がなされ、全員異議なく原案通り満場一致で承認された。

第2号議案については、黄瀬専務理事が主要な事業計画と予算についての説明と、更に次年度4月から通常総会までの予算執行を本年度3月の理事会において会長に一任したいとの説明を行い、これまた原案通り満場一致で承認された。

第3号議案については、議長推薦という選任方法について出席者からの承認を受けた後、事務局がその推薦案を読み上げたところ、全員異議なく承認され、滞りなく全議案の審議を終えた。

総会終了後、役付理事選任理事会を別室にて開催し、



会長に服部重彦氏を新任、更に副会長に作田久男氏、武田一平氏、天野嘉一氏、依田 誠氏、林 泰彦氏、錦織 隆氏、片岡宏二氏の7氏を再任した。そしてこれを総会出席者全員に報告し、満場の拍手を受け、服部新会長一期目のスタートとなった。

会 長	服部 重彦	(株)島津製作所	会長	新任
副 会 長	作田 久男	(オムロン(株))	社長	再任
	武田 一平	(ニチコン(株))	会長	再任
	天野 嘉一	(日新電機(株))	社長	再任
	依田 誠	(株)ジーエス・エフ・コーポレーション	社長	再任
	林 泰彦	(福田金属箔粉工業(株))	社長	再任
	錦織 隆	(株)日進製作所	社長	再任
	片岡 宏二	(株)片岡製作所	社長	再任
専務理事	黄瀬 謙治			再任
常任理事	31名			
理 事	28名			
監 事	5名			

(新役員名簿は5頁に掲載)

引き続き懇親会を開催、冒頭、服部新会長が挨拶を行った後、来賓の柏原康夫京都銀行頭取よりの祝辞、来賓紹介、この春藍綬褒章を受章された京都府金属プレス工業会・阪口雄次理事への記念品の贈呈、そして新入会員(正会員5社・賛助会員1社)の紹介が行われ、賑やかな雰囲気の中に依田副会長の乾杯発声で開宴した。その後は和やかに歓談し、天野副会長の閉会挨拶をもって盛況裡に懇親会を終えた。

就 任 ご あ い さ つ

会 長 服 部 重 彦

この度、平成22年度の通常総会（5月21日開催）におきまして京都工業会の会長に就任いたしました。大役であり責任の重さに身の引き締まる思いをいたしております。

留任されました7人の副会長をはじめ、役員各位、そして会員の皆様にご支援をいただきながら、皆様方のご期待に沿い得ますよう、誠心誠意努力いたす所存でございますので、ご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、京都の製造業はこれまで、伝統産業により培われた精密な技術・丁寧なものづくりをベースに、研究開発・生産技術を重視し、また、京都から直接世界市場を視野にビジネス拡大を行うなど、わが国の製造業の中でも、ユニークな存在感と共に、確実な競争力を維持してきました。

京都のものづくり企業の集団である京都工業会はその半世紀に及ぶ歴史の中で、常に時代の流れをいち早く掴み、事業の柱である会員交流、人材育成、産学交流等を通じて、京都の製造業の発展に着実な足跡を残してきました。これはひとえに先輩諸氏の努力の賜物と心より敬意と感謝の意を表する次第です。

リーマンショック以降、世界経済は嘗て無いほどのスピードで変化しています。世界同時不況により、日米欧の先進国をはじめ多くの国でマイナス成長になるなど、その影響は当初の予想を大きく越えた大きなものでありましたが、中国をはじめとする新興国の回復はすばやく、その後の躍進には目を見張るものがあります。また、地球温暖化対策は世界共通の課題であり、環境、省エネルギーに対する社会の関心と期待はこれまで以上に高まっています。

このような潮流の中で、本会の基本理念である『一21世紀を担うモノづくり集団ー京都からモノづくりイノベーション』をベースに、そして先の総会でご承認いただきました事業計画に沿って、事業活動の基盤強化、モノづくりのためのヒトづくり、産学公連携の更なる推進、地球環境対策への対応などを重点テーマとし、全力を傾

注して、事業推進をはかってまいります。

国内製造業は今大きな転換期を迎えています。変化に敏感に対応し、会員企業に有益な成果をもたらすことが、京都工業会の伝統であり使命であります。我々はさらに京都の強みを活かしつつ、新しい時代への対応を強固にするため、次の取り組みを開始、又は強化してまいります。



①グローバル企業と中小企業の連携促進

京都には世界でナンバーワンの製品を育ててきたグローバルな企業が多くあります。そしてそれらの企業は、新興国向けの回復が目を見張るほどですが、中小にはまだ回復の兆しが見えません。このグローバル企業と中小を結びつけ、ギャップを埋める方策を考えていきます。特に新興国ビジネス拡大を目論み、既に中国などの新興国に進出している大手会員と中堅ものづくり企業の連携を促進して海外生産拠点の開設など海外に共同進出する機会をつくっていききたいと考えています。

②中堅企業のネットワーク化による企業集団の構築

京都の伝統産業により培われた精密なものづくりをベースにした中堅同業企業のネットワークを構築していきたいと考えています。ネットワーク内で分業体制を確立し特徴のある企業集団（例：新潟燕市の「磨き屋シンジケート」のようなもの）を組織したいと思っています。

③ベンチャー企業の支援

京都は大学の街であり、伝統産業に根ざした企業の街です。このイノベーションの風土を生かすため、会員を中心とした企業の支援でベンチャー企業の立上げに積極的に取り組みたいと考えています。

このように、従来の活動に加え、新しい取り組みを有効にマッチさせ、何にも増して会員みなさんに喜ばれる工業会を目指してまいります。

厳しい時代ではございますが、皆様方のお力を頂戴し、全力を尽くすことをお約束し、就任のご挨拶とさせていただきます。

退任ごあいさつ

顧問（前会長） 矢嶋 英敏

去る5月21日の総会において、4年間務めさせて頂いた京都工業会会長を退任させて頂きました。副会長在任の2年間を含め6年間に亘り、役員、会員、事務局をはじめ多くの皆様方のご支援・ご協力を得まして、無事に務めさせて頂くことが出来ました。皆様方のご協力とご支援に対しまして心より御礼申し上げます。

平成18年5月の会長就任時は、原油高などの懸念材料はあったものの、バブル崩壊、アジア通貨危機などを経て、日本経済は穏やかながらも回復傾向にありました。そういった中で、翌年の京都工業会50周年記念行事の計画をはじめとして、人材育成・中小企業育成の各事業や、グローバルな競争に対応すべく経済発展が著しいBRICsへの産業視察などの事業推進を掲げて会長職をスタートしたと記憶しております。

この4年を振り返ってみますと、まず前述のように京都工業会50周年記念式典を京都府内外から多くのご来賓及び関係者の方々をお迎えして盛大に開催することが出来ました。いまや日本一の工業会と自負いたしておりますが、過去50年間の役員及び関係者の皆様の大変なご努力に深く敬意を表する次第でございます。また、記念事業の一環として企業・大学高専・高校の部に分けて記念論文コンテストを行い、最優秀、優秀の受賞者を中国モノづくり研修に派遣しました。このような事業により学生のモノづくりへの関心が将来の京都産業発展に寄与することを強く期待しております。

一方で、悲願の工業会館建て替えが、会員の皆様の総意で粛々と進められていたにもかかわらず、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融危機による景気後退で、その実施を凍結せざるを得なくなったことはかえすがえす残念な出来事でした。本件につきましては会員の皆様のご協力ならびにご理解に改めて感謝申し上げます。

その他の主要事業についてもそれぞれ述べさせて頂きますと、まず、人材育成に関しましては七つの委員会によるセミナー、研究会、懇話会等を数多く行いましたが、とりわけ京都高等技術・経営学院ではめまぐるしい経済

環境や技術革新に対応する高度な経営力と技術力を備えた優秀な企業人材の育成に取り組みました。

また、「白鷺クラブ」では将来の京都産業を支える中小企業後継者を対象として企業視察、交流会、講演会などによる実践研修を行っ

てまいりました。産業発展に最も重要な人材育成事業が非常に充実した内容であり、日本一の工業会活動であると自負する所以でございます。

次に、産学公連携事業では毎年「京都産学公連携フォーラム」を開催し、公のご支援により、学のシーズと産のニーズを交流させる場を提供し、新たな事業の創出を図って参りました。この間、大学も当初の6大学から昨年は8大学の参加を得て年々活況を呈してきております。この活動から是非新規事業が創出をされることを願っております。

また、産業視察では、国内においては他府県の企業・官庁訪問、工業会との交流会を通じてモノづくり及びその支援の実態を把握致しました。海外につきましては経済新興勢力のひとつであるインドの企業活動、着実な成長を続ける北欧、中欧のグローバル企業の施策などを学んで参りました。

今後も、京都工業会の使命として人材育成、中小企業育成、産学公連携をメインに各事業がさらに充実して継続されることを祈っております。

なお、後任の会長には同じ企業から続けてとなりますが、島津製作所会長の服部重彦氏に就任頂きました。製造部門や海外子会社社長の経験もあり、モノづくりやグローバルビジネスには非常に見識も高く、京都工業会を一層発展させて頂けるものと確信しております。

終わりにになりましたが、京都工業会及び会員企業の皆様の益々のご発展を心からお祈り申し上げ、会長退任に際しての御礼のご挨拶と致します。

ありがとうございました。



平成22年度（第43期）事業計画大綱

基本理念：—21世紀を担うモノづくり集団—

京都からモノづくりイノベーション

※新規事業、または一部新規事業

(1)事業活動の基盤強化・モノづくりネットワークの拡大・充実をはかる

- ※1) 会員拡大運動の推進……………年間
- 2) 公益社団法人への検討……………年間
- 3) 朝食懇談会、新春交歓会の開催……………定例
- 4) 京都工業クラブ、蔦の会、白鷺クラブの開催
……………各12回／年
- 5) 他府県産業界との交流……………1回／年
- 6) 委員会活動の活性化……………年間

(2)「モノづくりのためのヒトづくり」の更なる強化をはかる

- 1) 京都高等技術・経営学院の内容の充実……………
研究科3コース／年
 - ア. 電子システム研究科
 - イ. メカトロニクス研究科
 - ウ. ウエルネス研究科
- 2) 生産管理・技術等研究会内容の充実強化……………年間
 - ア. 経営管理懇話会の開催
 - イ. 管理技術研究会の開催
 - ウ. 技術・情報管理研究会の開催
 - エ. 生産マネジメント研究会の開催
- 3) 技術開発支援強化……………随時
 - ア. テクノロジー＆マネジメント研究会の
開催……………13回／年
 - ※イ. R E A C H対応特別研究会の開催…3回／年
- 4) 大会・フォーラム・セミナー・工場見学会などの
開催……………随時
 - ア. モノづくり革新現場見学会の開催…5回／年
 - ※イ. 技能伝承セミナーの開催……………1回／年
 - ※ウ. 開発設計ソリューション見学会の開催
……………6回／年

(3)新たな産学公連携の強化による新産業・新事業の創出をはかる

- 1) 京都産学公連携フォーラムの開催……………1回／年
- 2) 産学連携マッチング交流会の開催……………4回／年
- 3) 京都産学公連携機構との連携……………年間
- 4) (独)産業技術総合研究所との連携強化……………年間

(4)経営国際化の推進による新産業・新事業の創出をはかる

- 1) 2010中国産業視察団の派遣……………1回／年
- 2) アジア市場・企業の調査及び研究……………随時

- 3) 海外企業及び経済団体との交流……………随時

(5)経営革新の研究・追及によりビジネスチャンスの創出をはかる

- 1) 2010中堅企業見学会の開催……………6回／年
- 2) 2010中小企業見学会の開催……………6回／年
- 3) 中小企業技術幹部交流会の開催……………6回／年
- 4) 京都ハイブリッドテクノロジーネット
事業の実施…6回／年

(6)環境対策の向上を通じ地域・地球環境問題への対応をはかる

- 1) 環境マネジメントシステム
(ISO14001及びKES)の推進……………年間
- ※2) カーボンマネージメントの動向調査と研究
……………年間
- ※3) マテリアルフローコスト会計（環境管理会計、
MFCA）の導入促進及びセミナー開催……………年間
- 4) 京都環境管理研究会の開催……………7回／年
- 5) 労働安全衛生研究懇話会の開催……………7回／年
- 6) 京都エコ産業推進機構（京都府）
「環境対応型新技術開発支援事業」の実施
……………年間

(7)地域産業活性化事業への参画と効果的連携をはかる

- 1) 京都経済団体協議会との協調……………随時
- 2) 関係経済団体との協調……………随時
- 3) 関係行政機関との情報交換と協調……………随時
- 4) 北部地域活性化及び舞鶴港活用の支援……………随時
- 5) 青少年と科学の会への支援及び
京のエジソンプログラムの推進……………随時

(8)広報・会員サービス事業の推進をはかる

- 1) 会員企業優秀従業員の会長表彰……………1回／年
- 2) 京都工業会ニュースの発行……………5回／年
- 3) 景況等に関する調査・報告……………随時
- 4) 会員情報交換システムの拡充……………随時
- 5) 建議・要望活動……………随時
- 6) 会員カタログコーナーの設置……………年間
- 7) 各種表彰推薦……………随時
- 8) 会員名簿・要覧の発行……………1回／年

(9)京都工業会館の円滑な運営と有効活用をはかる…年間

社団法人 京 都 工 業 会

〈新 役 員〉

(役職は平成22年 5 月21日現在)
(※は新任)

会 長	※服部重彦	(株)島津製作所	会 長	常任理事	前川重信	日本新薬(株)	社 長
副会長	作田久男	オムロン(株)	社 長		村田純一	村田機械(株)	会 長
	武田一平	ニチコン(株)	会 長		村田恒夫	(株)村田製作所	社 長
	天野嘉一	日新電機(株)	社 長		森田隆一郎	(株)モリタ製作所	社 長
	依田 誠	(株)ジーエス・ユアサ コーポレーション	社 長		山岡祥二	(株)山岡製作所	社 長
	林 泰彦	福田金属箔粉工業(株)	社 長		横井英雄	三菱自動車工業(株)	執行役員 パワーレン製作所所長
	錦織 隆	(株)日進製作所	社 長	理 事	安藤源行	(協)日新電機協力会	理 事 長
	片岡宏二	(株)片岡製作所	社 長		※井野春重	朝日レントゲン工業(株)	社 長
顧問	西八條 實	(株)島津製作所	相談役		上野山寛次	上野山機工(株)	社 長
	寿栄松憲昭	元日本電池(株)	社 長		尾池 均	尾池工業(株)	社 長
	藤原菊男	(株)島津製作所	相談役		岡本光三	(株)大日本科研	社 長
	田中千秋	元日本電池(株)	社 長		笠井健司	京都府鑄物工業(協)	代表理事
	※矢嶋英敏	(株)島津製作所	相談役		北村隆幸	メテック北村(株)	社 長
専務理事	黄瀬謙治	(社)京都工業会	専務理事		※幸元 攻	サンコール(株)	会 長
常任理事	※安部川 信	関西電力(株)京都支店	支店長		小林剛一	日本電気化学(株)	社 長
	石田 明	大日本スクリーン製造(株)	会 長		斉藤房一	(株)富永製作所	社 長
	石田隆一	(株)イシダ	会 長		阪口雄次	(協)京都府金属プレス工業会	理 事 長
	岩田武久	(株)たけびし	社 長		里村善啓	宇治電器工業(株)	相談役
	宇城邦英	京都機械工具(株)	社 長		島田泰男	(株)菊水製作所	会 長
	裏辻俊彦	日本輸送機(株)	社 長		須河進一	須河車体(株)	社 長
	大倉治彦	月桂冠(株)	社 長		※鈴木三朗	(株)最上インクス	会 長
	大宮 正	宝ホールディングス(株)	副社長		鈴木正三	日本写真印刷(株)	名誉会長
	檜藤達郎	(株)カシフジ	社 長		瀬川 孝	旭光精工(株)	会 長
	川村 誠	京セラ(株)	会 長		竹ノ内壯太郎	三和研磨工業(株)	社 長
	小原 勉	(株)工進	社 長		土田 修	大日本印刷(株)包装事業部	専務取締役担当役員
	塩田展康	日東精工(株)	社 長		※根来紀行	(株)松風	社 長
	砂崎進一郎	(株)砂崎製作所	社 長		野上幹夫	(社)京都工業会	理事・事務局長
	高井保治	(株)フジタカ	会 長		橋本 進	(株)京都製作所	社 長
	塚本能交	(株)ワコールホールディングス	社 長		古川康夫	丹後機械工業(協)	理 事 長
	津田章裕	第一工業製薬(株)	相談役		水主邦彦	太陽機械工業(株)	会 長
	津田幸平	津田電線(株)	社 長		森川真伍	(株)森川製作所	社 長
	富田泰溥	星和電機(株)	名誉会長		※山中泰宏	旭金属工業(株)	社 長
	※中島 賢	大阪ガス(株)	常務執行役員 京滋地区総支配人		吉田典生	三和化工(株)	社 長
	中西正夫	(株)川島織物セルコン	社 長		渡邊 壯	松下精機(株)	社 長
	坂東和彦	T O W A (株)	会 長	監 事	井上哲次	京都精工電機(株)	会 長
	平田 弘	グンゼ(株)	社 長		※河原耕嗣	(株)宮木電機製作所	社 長
	福田一右	太平工業(株)	社 長		佐藤博文	エンゼル工業(株)	会 長
	※堀 英二郎	太陽精機(株)	副社長		中沼 壽	中沼アートスクリーン(株)	会 長
	堀場 厚	(株)堀場製作所	会長兼社長		中野秀紀	明光精器(株)	社 長

第42回通常総会



挨拶 矢嶋 英敏
京都工業会 会長



祝辞 太田 昇
京都府副知事



祝辞 門川 大作
京都市長



就任挨拶
服部 重彦 新会長



祝辞 柏原 康夫
京都銀行 頭取



乾杯 依田 誠
京都工業会 副会長



和やかな懇親交流会



閉会挨拶 天野 嘉一
京都工業会 副会長

鳶の会・白鷺クラブ

平成22年度 定期総会を開催 $\frac{4}{8}$

4月8日夕、鳶の会、白鷺クラブの平成22年度定期総会が両会会員35名が出席し、下京区の京都東急ホテルにおいて開催された。

平成21年度の活動報告、平成22年度役員の選任、更には平成22年度の事業計画について討議を行い、全ての議案について承認された。

<平成22年度役員>

代表幹事：



中村 道一君
(NKE・社長)

代表幹事：



中川 仁君
(中川パッケージ・社長)

<新役員>

- 幹事：城之園哲朗君（泉電熱・専務取締役）
〃：砂崎 達哉君（砂崎製作所・専務取締役）
〃：井尾 賢司君（井尾製作所・社長）

一泊視察旅行

$\frac{6}{9 \cdot 10}$

長崎県を訪問

白鷺クラブでは、恒例の一泊視察として、造船業を中心に日本の成長を支え、今尚、西九州の中心地として発展を続ける長崎県を、同クラブとして初めて6月9日、10日の両日にわたり訪問した。



9日には、京都からの進出企業として有名な九州ワコール製造(株)長崎工場を訪問、翌10日には三菱重工関連の(株)丸金佐藤造船鉄工所、そして三菱電機関連の服部産業(株)を訪問、各々世襲社長である両社社長より企業承継時の苦心談、将来を見据えた事業戦略、従業員の能力開発及び育成について、様々な事例を交えつつ、熱心な討議を行った。

午後には、わが国近代工業黎明期の長崎造船所の華やかな状況を偲ばせる三菱重工業長崎造船所史料館を見学し、二日間にわたった有意義な長崎県への視察研修を終えた。

平成22年度 会員企業優秀従業員定例表彰

5/14

～ 58 氏 を 表 彰 ～

5月14日(金)午後、平成22年度優秀従業員定例表彰式が京都工業会館にて行われた。

まず、受賞者58氏(45社)を代表して、浦上 浩氏(TOWA(株))へ矢嶋会長から表彰状と記念品が授与された。

続いて同会長の式辞、来賓の京都府商工労働観光部副部長 田中準一氏、京都市産業観光局商工部産業政策課長 宮田英喜氏の祝辞の後、受賞者代表として松田真史氏(福田金属箔粉工業(株))が謝辞を述べた。そして最後に、本会正副会長、来賓各位とともに記念撮影を行い、同表彰式を終えた。



〈受賞者名〉 (以下敬称略)

(株) イ シ ダ	松村 清隆	三 和 化 工 (株)	山本 道徳	日 新 電 機 (株)	田中 義明
一 志 (株)	松岡 政博	三 和 研 磨 工 業 (株)	中村 英治	日 東 薬 品 工 業 (株)	竹中 竜海
(株)NHVコーポレーション	石田 道夫	(株) G S ユ ア サ	野呂田 賢	日 本 輸 送 機 (株)	町田 隆史
オ ム ロ ン (株)	吉岡 隆	(株) G S ユ ア サ	山崎 数宏	福田金属箔粉工業(株)	東 孝一郎
尾 池 工 業 (株)	竹中 利夫	島津エンジニアリング(株)	小寺 一郎	福田金属箔粉工業(株)	松田 真史
大阪ガス(株)京滋リビング営業部	上辻 宣之	島津システムソリューションズ(株)	柴田 康雄	(株)堀場製作所	大西 敏和
大阪ガス(株)京滋エネルギー営業部	三好 正	(株)島津製作所	清水真知子	(株)堀場製作所	吉川 清二
(株)カシフジ	北村 敏夫	(株)島津製作所	東 洋 一	三菱自動車工業(株)パワートレイン製作所	安藤 光生
(株)菊水製作所	田中 直行	星 和 電 機 (株)	古田 雅也	三菱自動車工業(株)パワートレイン製作所	伏見 政興
京 セ ラ (株)	田中 孝之	(株)タイヨーアクリス	平井 清陽	(株)宮木電機製作所	中田 澄雄
京 セ ラ (株)	松野 茂樹	太陽機械工業(株)	田中 常美	村 田 機 械 (株)	岡崎 薫史
京都機械工具(株)	西岡 文雄	(株)大日本科研	岸本 敏晴	村 田 機 械 (株)	島野 明
京都精工電機(株)	田中 芳博	津 田 電 線 (株)	西村 紀子	メテック北村(株)	武内 雅
クロイ電機(株)	片木 隆弘	ト ク デ ン (株)	橋本 健	明 光 精 器 (株)	宮崎 武夫
月 桂 冠 (株)	河 清美	T O W A (株)	浦上 浩	(株)モリタ製作所	竹中 雅宣
(株)ゴードーキコー	吉田 保夫	T O W A (株)	東浦 龍樹	(株)モリタ製作所	田中 義治
(株)工 進	石塚 義広	(株)藤堂製作所	山田 敏彦	(株)ユーシン精機	野田 勝美
サンコール(株)	杉本 真一郎	(株)富永製作所	栗原 右一郎	(株)ユーシン精機	芳川 修一
サンコール(株)	本堂 陽子	(株)日進製作所	今西 武夫		
(株)佐藤製作所	田中 康市	(株)日進製作所	長島 道和		

藍綬褒章御受章の栄



理 事

阪口 雄次 氏

((協)京都府金属プレス工業会
理事長)

会員各位とともに、
心よりお祝い申し上げます。



ゴルフ同好会 (KIG) だより

▶平成22年度第2回例会(第190回例会)結果

と き：平成22年6月8日(火)

ところ：琵琶湖カントリー倶楽部

参加者：9名(内、シニア2名)

優 勝 城之園哲朗氏(泉電熱(株))

準優勝 富田 泰博氏(星和電機(株))

3 位 武村 辰憲氏(双和電機(株))
B G 賞

業務革新研究会・総合オリエンテーションを開催 ～多数の新規参加企業を得て、総勢203名で活動をスタート～

4 / 22

総合オリエンテーション

当日は、先ず12時から「技術・教育委員会と各研究会の正副主査との懇談会」を開催、研究会の運営方法や正副主査の役割などについて、意見を交換した。

その後、13時30分より総勢203名が一堂に会し、総合オリエンテーションを開催した。

冒頭、技術・教育委員会 委員長 太田 稔氏（日新電機(株)総務人事部主幹）が、「激動の今こそ、他社事例やアドバイザーの講義、演習などから各自の業務革新能力を磨いて、新たな社内BM（ベンチマーク）化へのヒントやノウハウを持ち帰って欲しい」と挨拶。

続いて研究会活動を行う上での基本事項を確認後、当事業のOBでもある泉電熱(株)製造課長 明石栄司氏が、「これからのモノづくりに求められること」と題して講演、その後、8研究会は、それぞれに分かれ、年度方針の検討を行った。

5月から本格的な活動がスタートする。

研究会誕生の背景

研究会事業の発端は、1959年に開催された「IE研究会」という講習会にある。

これを機に講習会では解決しない管理技術面での課題を解消するための場を設置しようとの機運が強まり、島津製作所、オムロン、三菱重工業などの大手会員企業が牽引役となって、先ず、1963年に品質管理、生産管理、外注管理、作業、工作の5研究会の設置をみた。その特徴は、

- ①各社の第一線の管理技術者がギブ&テイクをとおして、実務上の問題解決を目指すこと
- ②大手企業が中小企業の管理技術者の養成に貢献すること にあった。

以後、50年余の歴史と伝統を刻みながら、本年度から事業名を15年ぶりに「業務革新研究会」に一新し、より激動の時代に対応できる内容作りを目指す。

平成22年度の方向性

「グローバルQCD競争に勝ち残るものづくり革新力の強化」をテーマに、研究会メンバー一人一人がその業務経験と能力に応じ、1年間の到達目標を設定し、より実践的な演習等を増強していく。当面、前期・基本編（5～9月）においては、アドバイザーの指導を受けながら、

- ①実務の基本を再確認するグループ
- ②経験交流による実践研究を行うグループ

の2グループに分かれ、また、後期・実務編（10～2月）においては、両グループが合流して共通課題を研究する仕組みで1年間の活動を運営する。



平成22年度は、新たに研究会横断的な共同事業の企画を設けると共に、この8研究会を基盤に幅広く内外の業務革新情報の収集、各種大会、特別講演会等の開催、マンスリーレポートの発刊など、外部に向かってもタイムリーな情報を発信していく。

研究会の正副主査名 （敬称略）

研究会名	正副主査名・社名
品質革新 (26名)	石田 初男 (星 和 電 機 (株)) 杉江 誠司 (京 都 電 子 工 業 (株)) 長田 俊一 (日 本 電 気 化 学 (株))
生産管理(TOC) (20名)	横手 卓 (株)島津デバイス製造) 道本 健太 (ムラテック情報システム(株)) 蘭田 重郎 (N K E (株))
購買調達革新 (32名)	廣山 和也 (日 本 輸 送 機 (株)) 川岸 修 (ニ チ コ ン (株)) 吉田 央 (オムロンヘルスケア(株))
生産革新:基礎IE部会 (34名)	和泉 憲幸 (ニ チ コ ン 亀 岡 (株)) 森山 貴司 (株)旭プレシジョン) 大桃 敏明 (株)堀場エステック)
生産革新:JIT改善部会 (20名)	加藤 久雄 (大日本スクリーン製造(株)) 仁木 隆裕 (村田 パ ー ツ 販 売 (株)) 吉田 幸司 (株)イ シ ダ)
VE(開発設計革新) (16名)	広井 和則 (株)G S ユ ア サ) 松尾 毅也 (株)京 都 製 作 所) 藤村 和良 (三 和 化 工 (株))
生産現場リーダー力強化 (40名)	勝山 信夫 (日新受配電システム(株)) 長沢 昭人 (株)タイヨーアクリス) 中沢 努 (日 東 精 工 (株))
T P M (15名)	高山 清 (メ テ ッ ク 北 村 (株)) 柴山 勉 (株)淀 製 作 所) 村田 大輔 (株)松 風)

2010 中国産業視察団・報告

本会では、これからの世界を展望する中で最も注目される中国の現状に触れるべく、去る6月13日(日)～17日(木)の間、「2010 中国産業視察団」(団長：服部重彦 (社)京都工業会会長・(株)島津製作所会長)を派遣いたしました。本視察団の報告として正副団長の所感、団員のレポートを掲載いたします。



▲上海万博・日本館前にて

《視察日程》

日次	月/日(曜)	発着地／滞在地	現地時間	交通機関	スケジュール	〈宿泊ホテル〉
1	6/13 (日)	関西空港発 上海着 (浦東空港)	10:25 11:55	JL891 専用車	空路、上海へ 着後：上海市内主要産業施設 視察	〈JWマリオット上海泊〉
2	6/14 (月)	上海	終日		○上海世界博覧会2010(上海万博) 視察 ○上海マイツ代表・税理士・公認会計士 池田博義氏との意見交換、懇談 「上海を中心とした中国経済の現況と展望」 同氏は中国各地でネットワークを構築する中国情報通で、実践豊富な専門 家集団を率いる。中国に進出する日本唯一の会計事務所	〈JWマリオット上海泊〉
3	6/15 (火)	上海発 杭州着	午前	新幹線 専用車	新幹線にて杭州へ 着後： ○美迪亜印刷設備(杭州)有限公司 見学 (大日本スクリーン製造(株)) ○杭州早川電線有限公司 見学 (ハヤカワ電線工業(株) 本社：姫路市)	〈シャングリラ杭州泊〉
4	6/16 (水)	杭州	終日	専用車	○杭州市内主要産業施設 視察	〈シャングリラ杭州泊〉
5	6/17 (木)	杭州発 上海発 (浦東空港) 関西空港着	午前 13:25 16:35	新幹線 JL894	新幹線にて上海へ 空路、帰国の途へ	

《団員名簿》

《団 長》	服 部 重 彦	(社)京都工業会 会 長／(株)島津製作所 会 長
《副団長》	林 泰 彦	(社)京都工業会 副会長／福田金属箔粉工業(株) 社 長
”	錦 織 隆	(社)京都工業会 副会長／(株)日進製作所 社 長
”	片 岡 宏 二	(社)京都工業会 副会長／(株)片岡製作所 社 長
《団 員》	片 岡 巴	片岡宏二 令夫人
	片 岡 由 希	片岡宏二 令嬢
	中 島 賢	(社)京都工業会 常任理事／大阪ガス(株) 常務執行役員・京滋地区総支配人
	堀 英二郎	(社)京都工業会 常任理事／太陽精機(株) 副社長
	山 岡 祥 二	(社)京都工業会 常任理事／(株)山岡製作所 社 長
	山 岡 佳 代	山岡祥二 令夫人
	森 川 忠 夫	(社)京都工業会 理 事／(株)森川製作所 社 長
	藤 永 清 恵	(株)森川製作所 常務取締役
	吉 田 典 生	(社)京都工業会 理 事／三和化工(株) 社 長
	井 尾 勉	(株)井尾製作所 会 長
	井 尾 美紀子	(株)井尾製作所 取締役・井尾 勉 令夫人
	北 川 尚	オムロン(株) 取締役室室長
	鹿 野 恒 雄	鹿野産業(株) 社 長
	姫 野 彰 二	(株)ジーエス・ユアサ コーポレーション コーポレート室部長
	福 島 宏 郎	(株)島津製作所 国際本部第一海外営業部長
	岩 佐 譽	ニチコン(株) 執行役員常務C S R室長
	上 田 政 行	日新電機(株) 常務取締役
	丸 山 明 彦	日本メカテクノ(株) 社 長
	丸 山 桂 子	丸山明彦 令夫人
	山 崎 博 文	日本輸送機(株) 総務部部长
	田 代 加 平	富士高分子(株) 社 長
	金 丸 正 樹	明光精器(株) 生産技術課主任
	黄 瀬 謙 治	(社)京都工業会 専務理事
	野 上 幹 夫	(社)京都工業会 理事・事務局長



▲上海万博・日本産業館前にて



▲六和塔（杭州）

中国訪問所感

2010 中国産業視察団・団長

(社)京都工業会・会長

服部重彦



京都工業会中国産業視察団の団長として、6月13日から17日まで中国上海市と杭州市を訪問しました。折しも、中国国民の悲願である上海万博が開催中であり、清潔に保たれた街並みの中に歴史的な経済発展を成し遂げた人々の熱気と自信を感じることが出来ました。今後、国際社会の中で中国のプレゼンスが益々高まっていくであろうことが実感できる訪問でした。

上海万博参観の日は、ちょうど中国の重要な節句である端午節の休日とあって大変な人ごみでした。まず9時からの入場開始の1時間前に並んだものの、会場入口はすでに人でごった返しており、入場するときにはもみくちゃになりました。日本人がしり込みするのを横目に、中国人の団体客がどんどん追い越していくのを見て、彼らの逞しさに感じ入りました。入場後もしこもかしこも長蛇の列で、人気パビリオンは4時間待ちの札が出ていました。私たちの世代にとっては1970年の大阪万博を思い出させる混雑と熱気です。そうした中でも、工業会の事前手配により日本館と日本産業館を参観でき、それぞれ江原規由館長、秋岡栄子館長から歓待をいただきました。両館とも「生活の充実」「環境保全」といったテーマを掲げ、それを最新の映像技術やロボットを駆使して紹介しており、レベルの高い内容でした。日本の技術力の高さが我々の将来の暮らしに大きく貢献できるというメッセージが良くアピールされていたものと感じました。上海では1994年から当地で会計事務所を展開するマイツグループの池田代表から中国経済の現況と展望についてお話を伺いました。高い経済成長を続ける中国ですが、一昨年のリーマンショックの際に、いち早く4兆元(52兆円)の大型景気策を打ち出して景気回復に導いたことは記憶に新しいところです。このときに計画されたインフラ整備への投資と、家電・自動車の普及政策などの内需拡大策によって、当面は成長を維持できるというのが池田氏の見解です。対外的にもアフリカへの支援や先進国での企業買収などの活動が活発になるだろうとのことで、それが進めば中国の存在感は益々高まっていくものと思われまふ。長期に渡って中国で活躍される池田氏の熱い思いが伝わって来ました。

上海から杭州へは、日本の技術を導入した新幹線(中国語で「動車組」)で移動しました。車内は全く日本の新幹線そのもので、中国のインフラ整備が着実に進んでいることが実感できました。杭州は大都市上海とは違い、古来景勝地として有名な西湖を中心とした落ち着いたたたずまいの都市です。

ここでは、当地に進出している日系企業2社を訪問しました。一社は美迪亜印刷設備(杭州)有限公司(大日本スクリーン製造(株)の子会社)で、印刷機を製造しています。同会社の末松総経理によると先端の装置の生産を始めたところ、すぐに安価な中国製品が現れて競合相手になっているとのことで、中国ビジネスの難しさを垣間見た気がしました。もう一社は杭州早川電線有限公司(ハヤカワ電線工業(株)の子会社)で、主な製品はワイヤハーネスです。社員1000人のうち9割は女性で、彼女等が整然と配線作業に携わっているのは壮観でした。楊煥春総経理は日本への留学経験があり、1994年の創立当初から当地での事業に携わっています。今は中国で5ヶ所ある工場を統括する中国本部長の立場にあります。楊総経理のご指導の下、不良発生率はPPM単位とのことで素晴らしい成果であると思います。海外事業においては、核となる人物が重要であることが改めて理解できました。

それにしても、今回の訪中では万博会場を始めとして良く歩きました。余談ながら、私は毎朝1時間位歩くことを日課としていますが、それが役に立ちました。また、毎夜の食事では団員の方々と紹興酒を酌み交わし、楽しい時をすごさせていただきました。皆さん、中国のベテランぞろいで、円卓に座ると酒豪に変身されるのには、驚かされるものがありました。帰国するや否や人民元切上げが発表され、中国ビジネスも一本調子では行かないことではしょうが、今後とも皆さんとともに日中経済交流に貢献して行きたいと願っております。

この時期の華東地方にしては暑すぎもせず、天候に恵まれた訪中でしたが、無事に日程を終わることが出来ました。最後に、京都工業会事務局の皆様を始め、お世話になった方々にこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。

(株)島津製作所 会長

中国産業視察団に参加して

2010 中国産業視察団・副団長
（社）京都工業会・副会長

林 泰 彦



4泊5日の短い視察であったが、以前のインド、北欧、東欧とはまた違い、何か落ち着いた気分の日々であった。これも10年前に3年間、中国に駐在していたことによるなじみやすさと（その後の飛躍的な発展、その中でも残すべき観光地は従来以上に整備・充実されているなど）、10年振りの観光地訪問となったことで懐かしさばかりが先行した。

6月14日の上海万博観光視察は、端午の節句（中国は旧暦）の期間で中国政府の休日変更により3連休と重なったため、あらゆる所で混雑に巻き込まれ、中国のバイタリティーに圧倒された。あとで聞けば、初めて上海万博の入場者が50万人を突破した日であり、あいにくの曇天にもかかわらず入場1時間前から並んでいたが、悪しき中国人マナーの悪さを垣間見た。後から来て横入りするは、押すは、押しのけるはなど、ある程度は団体でゆっくり入れると思った我々の甘さを思い知らされた。学生時代の1970年、日本で開催された大阪万博でも経験していないほどの押し合いへし合いで入場したが、いたるところ人・人・人。しかも中国人は、動き回って疲れるぐらいなら3～4時間待ちを見越して簡易のイスに腰を下ろし、水分補給のためのキュウリを食べながら待つといった風景が至るところで見られ、中国人気質を教えてもらった。中国・蘇州に駐在の日本人に後で聞いた話によると、列を乱す人間を寄ってたかって殴るなど、それを楽しむ人間が多いと聞き、いろいろな楽しみ方があるのだと変に感心してしまった。

人気パビリオンは、国威高揚の中国館、建物にお金をかけているが中身のないサウジアラビア館、興味をそそる日本館がビッグ3とのこと。私たちは、日本産業館・日本館を見学させてもらったが、非常にお金をかけ丁寧に作り上げておられ、「こころの和、技の和」をテーマとして最先端技術を駆使し、自然環境保護、人々の生活や高齢者福祉の近未来の姿を示し、“きれい、かわいい、気持ちいい”が強調されていた。日本の風景や現在の風俗の紹介もあったが、中国にないものを追求しているこ

とが、人気パビリオンの秘訣ではないかと感じた。日本の良さ、京都の良さを改めて思い知らされたひとときであった。これからも、「Jー感覚」が維持できるよう頑張りたいものだ。「Jー感覚」とは、本来は「Japan感覚」とすべきだが、反日感情を考慮しているつもりだろうが、もっとはっきりすべきかもしれない。この態度が、中国を増長させているといえる。

翌日、杭州にある日系企業2社を訪問させてもらった。

一社目は印刷機を製造している会社で、主要部品を含め現地調達化され、品質維持策としての全数検査の実施をしており、従業員の真面目さと仕事に取り組む態度に感心した。と同時に、日本、BRICsなどランク付けした製品を作り出しており、価格対応できるようにしていた。日本技術の品質を落すことなく顧客レベルに合わせた商品群を作ることが、これから求められよう。

二社目は、中国人スタッフが日本語で説明されるなど上級幹部も日本経営を理解しているようで、中国での成功例を教えてもらった気がした。中国人総経理は、工場用地選定や人員募集など大きな権限を与えられており、日本側の経営者は常に文句ばかりいってくると笑って説明していたことが印象に残っている。このように、日系企業の現地同化をうまく行なう企業、うまくやるための諸策を教えてもらえた充実した一日で、これを弊社の蘇州工場でいかに活かすかを常に模索していく必要があり、中国進出企業としてまだまだ仕事が多くあることを痛感した。

最終日は途中で視察団から抜けさせてもらい、その足で弊社の蘇州工場に行き、中国人スタッフを交えて今回の杭州での工場見学について話をし、会社を拡大するためには中国人幹部の力をより発揮してもらわねばと協力を求めた。

参加した方々が怪我なく無事に帰国できたことは、この上ない喜びです。楽しい旅行に感謝します。

（福田金属箔粉工業㈱ 社長）

中国産業視察

2010 中国産業視察団・副団長
(社)京都工業会・副会長

錦 織 隆



↓大都会 上海！！高層ビルが林立する浦東



↓ 世博会 会場風景



浦東空港からのリニアモーターカーはスピード控えめのおとなし運転で揺れも無く 快適。

久々に訪問した 上海は 相変わらず 建設ラッシュと人、人、人。

しかも 世界博覧会の開催中で 端午の節句の臨時連休。↓長蛇の列で3～5時間待ち。



↓人々は 我々と変わらない休日の服装。ここでも生活文化の大進展を再実感。



←服部団長の旗の下 いざ出発。



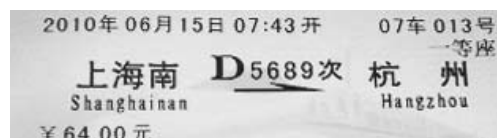


←上海市内は車の大渋滞。
でも ほぼ全部が新しい車。
昨年は 1,400万台の巨大自動車市場に成長。
今年は1,500万台を越えそう。
(弊社中国工場も社員の1割がマイカー通勤。
駐車場を慌てて整備した。)



←上海から杭州までは 新幹線で移動。日本の技術移転。
在来線を走る為 ここもスピード控えめ。170km/H。
乗り心地は 快適。料金は 64元 (約¥1,000)

↑ 来年には 上海⇄杭州間にも
リニアモーターの高速鉄道が完成し
所用時間は30分程に短縮するらしい。



杭州の街中 電動バイクだらけ→



←美女に見送られて 工場視察へ出発・・・
●大日本スクリーン杭州工場
印刷機用原版製作LASER加工設備製造
・世界市場、中国市場に供給する為
Hi end～Low endまでの仕様機を生産。
・品質は 日本並みを。
主要部は日本から供給するも 他は 中国調達。

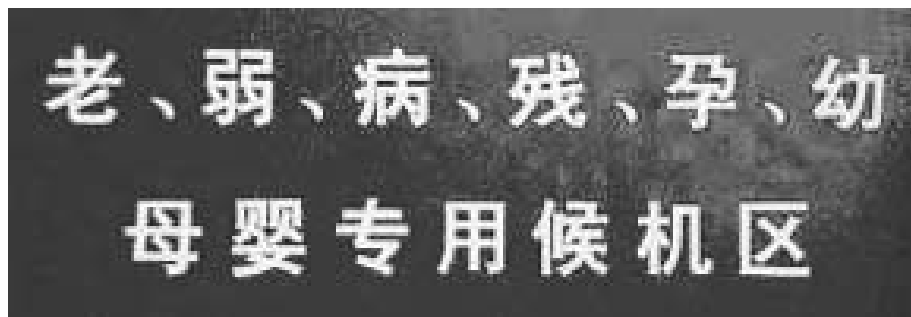
●早川電線杭州工場 →

- 日系メーカー向けワイヤーハーネス生産
- ・中国生産のメリットを最大限生かした生産ライン。
- ・全てを任されている楊総経理のもと整然と生産が進む。
- ・不良率 6 p p mはすごい！



←中国製LEDを使用した蛍光灯型照明を内製、使用。消費電力は1／2とかいづれ 販売も・・・

↓これ 何だか分かりますか？



老人、弱者、病人、障害者、妊婦、子供・・・専用区

電車、空港の待合室などのおもいやりゾーンの表示。

<残> : 障害者 分かりませんでした。

例年の通りの 早朝出発の 大変忙しい 駆け足の視察でしたが 中国の発展振りに目を見張りました。

不動産バブルを抑えようとしている中央政府の動きとは反対に まだまだ建設が続くマンション。投機目的の富裕層が購入していく。中国の土地は所有できないので 日本の不動産を買いに行く人々。

人々の服装も華やかで 車も新車がどんどん売れる。高速道路は世界一の長さになり新幹線のような高速鉄道がさらに伸張されていく。

上海という都会だけでなく 中国全土が沸き立っているのかも・・・

一方で 労働条件の飛躍的向上を求めた 非常識ともいえる労働争議の頻発。

いつ 崩壊してもおかしくない 非常に 危険な状況ともいえそう という 実感でした。

謝謝！！

(株)日進製作所 社長)

中国産業視察を終えて

2010 中国産業視察団・副団長
(社)京都工業会・副会長

片岡 宏二



今回(社)京都工業会 2010 中国産業視察団に参加させて頂き、この国の発展のスピードと可能性をどのように表現すればいいのか、その言葉が直ぐには思い浮かばない。私が最初に中国を訪問したのは、1980年代の半ばであった。その当時は北京空港に到着し、バスで市内に向かう光景を今でも鮮明に脳裏に焼き付いている。道路建設の現場を見たが、重機は無く、多くの人民による人海戦術での工事であった。道路にはボンネット型のトラックやバス、また日本製の乗用車が走っている横を、多くの馬車がのんびりと歩んでいた。その頃の中国は鄧小平によって開放経済が導入された頃だったと思う。今は日本企業の多くが進出している大連工業団地も、まだ造成もされてない所を案内されたことを覚えている。その後1990年代後半からはビジネスで中国には再三訪れるようになった。しかしここ5年程では、昨年上海と南京に行った位であったので、今回視察団として訪問した印象は、冒頭に述べたように中国の加速度的発展スピードを改めて感じる事となった。

特に主要都市は高層ビルが建ち並び、高速道路及び一般道も整備されると共に新幹線網も整備されつつある。我々視察団は上海から杭州への移動は新幹線を利用した。その車窓から見た風景の中に、清潔そうで大きな工場が整然と立ち並んでいた。また高層マンションが林立していることに、中国の富裕層が増えていることを実感した。

初日は上海・浦東空港から市内手前の龍陽路駅まで、中国自慢のリニアモーターカーに乗った。最高速度431Km/hの触れ込みだったが、私が見た限りでは301Km/hで少しがっかりした。また市内に入り世界一高い展望台の上海ヒルズを見学し、492mから上海の市内の絶景を見た。私の記憶では、このビルの名称を付ける時に「森ビル」の名前は中国当局から許可されなかったと思う。

2日目は上海万博を見学した。ここでも中国のパワーを見せつけられた。広大な土地に多くのパビリオンがあり、中でも人気の中国館は赤色を基調に万博会場最大の

建物だった。私は孫の土産に中国館のプラモデルを買ったが、なかなかのものである。しかしやはり感動したのは日本館であった。歴史と伝統の日本文化の紹介から先端技術の紹介は、中国の国民も関心を示すのは当然と思った。ステージから会場に向けて撮った写真が、数秒でステージのスクリーンに映しだされ、中国人の観客が「自分も映してくれ」と次々と手を挙げていた。またトヨタのロボットがバイオリンを弾いていたのも素晴らしいかった。私は以前京都で、矢嶋前会長とこのロボットの開発責任者と御一緒したことがあった。その時にこのロボットが東京芸大の楽団と共演したことをお聞きしていたのでとても興味深く鑑賞した。当日の夜は上海マイツ代表で公認会計士の池田博義氏の講演を拝聴した。講演の中で大変印象に残ったことが2点あった。まず1点は日本の内需とは、今後はアジアを含んで考えるべきであるということ。2点目は今後10年もすると中国でものづくりをするより、日本の片田舎の方が安価に出来るかも知れないということである。このうち1点目については私も同感であり実践をしているが、2点目は日本の製造業の空洞化問題に、解決の明かりが見える可能性を感じた。

3日目は上海から新幹線で杭州へ移動し、その後バスで杭州大日本スクリーン殿を訪問した。玄関で総経理はじめ幹部の方々と女子社員の皆さんが、整列をして出迎えて下さった。末森総経理の会社概要の説明のあと、営業責任者から電子製版の世界市場と中国市場の状況について説明を受けた。工場見学では部品の受け入れ検査から組み立て調整工程までを見学させて頂き、中国でも精度の高い部品を製作することが出来る理由が理解できた。大変有意義な工場見学だった。

この度の視察団には妻と娘を同伴して参加させて頂きましたが、服部団長はじめ団員の皆さまには公私にわたり大変お世話になりました。皆様に御礼を申し上げ報告とさせて頂きます。

(株)片岡製作所 社長)

上海万博と工場視察の感想

(株)井尾製作所 会長
井 尾 勉



上海万博

上海には今まで数回、訪れる機会があり、その都度インフラ整備と経済発展に驚かされていたが、この万博が集大成とばかりに大きく変化していた。

街中を以前のように歩いて見学する機会はなかったけれども、かつては入り交じった路地が迷路のようにあり、路地の奥には公衆便所が扉なしで臭気を漂わせ、道路にハミ出した洗濯物が太陽を求めなびいている。このようにバタ臭い光景しか記憶に残っていなかったが、今回、車窓からはそんな光景は見られなかったのは、やはり噂通りの国家施策ではなかったか。

万博会場は浦東地区で黄浦江を挟んで両岸にあり、車、地下鉄やフェリーで接続され、その広さに目を見張り、歩く距離と人の多さにも圧倒された。日本館に辿りつく、待ち時間4時間半。入場すると「日中友好」を前面に打ち出した展示内容は日本の宣伝ではなく両国のつながりと友好を訴えるという志に偏重し、「日本のすごさ」をアピールしてなかったように思われるし、亀歩きを余儀なくされ味気ないパビリオンの外観だけ観て入場を待つ人にとって4時間以上は苦痛だったのか途中で断念した人が多いと聞いて残念に思った。其の他、上海の経済情勢は池田先生の講演の中で理解する事が出来た。

杭州工場見学

【大日本スクリーン有限公司】

2004年9月に竣工されPTR4300機種から立上。

2009年には3機種目のPTR4300E/Sも生産ラインに。

順調に伸ばせてきた要因は周辺交通ネットワークがよく人材の確保の容易さと高精度の部品を加工してくれる加工会社が周辺に多いと説明された。確かにハイクオリティな部品を検査し組上げている

能力は日本を追い越すところまでできているのではないかと感じた。

【早川電線有限公司】

1994年8月に設立

家電の配線キッド（ハーネス）が50%以上での多量生産型。

また、男性100名女性900名の女性主体の会社。

不良発生率を100万分の25をスローガンとし2重3重の検査をする事で達成させていた。

女性従業員の年齢も平均26歳と若く活気にあふれていた。

労働問題が社会問題化している今日、この労働環境をいつまで維持できるのか疑問視して帰った。

最後に

中国は明るい前途と称して共産主義を全面に押し出し内陸部のインフラ整備と発展、水処理や環境技術の整備等々の問題を外国から修得と猿真似した技術で解決しようとしている。そして、したたかに出来たものを他国に安く売りつける経済戦略はかつての日本を思いおこさせられる。

帰国後目にした雑誌には日本の不動産に中国投資家は熱い視線を向け、上海で日本買のセミナーを開いた所、入場者が定員の2倍（約100名）もあり、その内容は東京と上海のマンション価額が同水準にあるが、賃貸収益は東京が2倍以上見込めるから日本買は有益であると宣伝していた。

1945年に日本は戦争に敗れはしたが、国民の努力ですまじい復興と発展を遂げ、中国を凌駕してきた。しかし、昨今の政治、経済、軍事面での中国の台頭は、日本に2度目の敗戦をもたらすかもしれないと思うのは私だけの想像であって欲しいとおもう。

「京都工業会 2010 中国産業視察団」に参加して

ニチコン(株) 執行役員常務
岩 佐 馨



この度は「京都工業会2010中国産業視察団」の一員として6年ぶりに上海を訪れる機会を得ました。その前とは振り返りますと改革開放路線が発表された後の1984年の頃でした。日本の電子部品業界の香港駐在員仲間で何とかして大陸へ入って状況視察ができないものかと画策しました。北京政府に中国の主要都市で日中電子部品技術交流会を開催したいと申し入れ、入国許可の招聘状を得ました。

そして、10人ほどの団を結成し北京、天津、蘇州、南京、上海と行脚しました。当時は背広姿の人など全く見かけることもなく、人々は皆な人民服一色でした。モノクロの写真で十分といった光景でした。

6年前の上海にはようやく浦東地区の開発が進み、東方明珠塔だけが場違いのように煌びやかな色彩を放ち聳え立っていました。

その後6年間で急速に高層ビル群が林立していました。今回は2年前に出現した世界一高い展望台（101階、474m）を誇る上海環球金融中心（森ビル）に上る機会を得ました。そこからの眺めは上海特有の霞の中に林立する摩天楼ばかりであり、幻想的でした。これら最新の建築技術・デザインを駆使した高層ビル群が整然かつ綺麗に区画整備されており、また街行く人々の服装もカラフルでファッショナブルでした。世界のどこの大都市にも勝るとも劣らないと映りました。1980年代の記憶が強烈であっただけに、浦島太郎のような気分させられ、驚嘆しました。

北京五輪に続く上海万博が中国経済発展への大きな起爆剤となることはもはや否定できません。国内でいろんな難問を孕んでいながらも、荒野を切り開くブルドーザーの如く驀進し続ける今の中国の勢いには他国も呆然と見守るしか術がないようにも思え脅威すら覚えました。上海万博の「日本館」参観について私見を記させていただきます。

万博会場は160年の歴史の街上海に新たな街ができたと言われています。日本館へは工業会事務局のご尽力に

より入場できました。

「日本館」は日本政府と民間の共同出資で作られ、今回の万博では「中国館」に次いで人気が高いようでした。淡いピンクの蚕の繭を模した外観形状で「紫蚕島」と呼ばれ、テーマを「こころの和・わざの和」と掲げていました。京都の神社仏閣と春夏秋冬の色彩変化を映し出し、そこに培われて来た「わび・さび・渋み」の風雅な歴史・文化、すなわち「日本の心」の何たるやを表現しているのだと理解しました。そして、それに対比する格好で日本の最先端技術が紹介されて行くのです。

もう一つのモチーフは絶滅種の朱鷺（トキ）でした。中国から贈られた朱鷺が今や日本で111羽にまで繁殖しており、日中の友好関係と深い絆のシンボルであると中国の皆さんの共感を喚起する狙いのように思えました。

次いで、上海マイツ代表 池田博義氏との情報交換会では大いに啓発されました。

時宜を得た著名な講師をお招きいただいた事務局の慧眼に感謝申し上げます。

最後に、今回の上海視察での感想を記します。

万博会場の設営もさることながら、市街の光景、とりわけ浦東地域に数年の間に出現した超高層ビル群を見るとき、上海そして中国の変貌ぶりに感心どころか脅威と戦慄すら覚えました。

かつて日本で仕事のスピードに関し、Dog Yearの噂が話題になったことがありました。今の中国の成長発展はまさにDog Yearそのものに他ありません。もはや日本のスピードと常識は中国では通用しないのではと観念させられたところもありました。しかし、日本は負けてはいられません。

知と技と心を以ってすれば自ずと勝ち残れる道が拓かれる、とポジティブに邁進することが一番大事であろうと確信しました。

閑話休題 昨年の日経新聞連載小説高樹のぶ子の「甘苦上海」に登場の旧租界などを地図で辿って見たいとの願いがお願いとなったのが心残りでした。

中国2010年 上海万国博覧会

日 時 2010年 6 月14日(月)

訪問先 日本産業館 (館長 秋岡 栄子氏)

日 本 館 (館長 江原 規由氏)

入場

当日は端午の節句(6月16日)の振替休日にあたり、50万人を突破して、開場以来最多の入場者数となった。残念ながら、中国館は長蛇の列で断念せざるを得なかったが、日本館と日本産業館に入場した。両館とも一般入場者の列にはいずれも4時間待ちの札が立っていた。

日本産業館

「日本の創るよい暮らし」をテーマに、日本企業による最新技術や日本の美意識をアピール。外壁をロボットがよじ登るパフォーマンスやリサイクル素材を使った内装が特徴。テーマシアターは縦長のハイビジョンスクリーンで「宴UTAGE」という映像を放映し、京都の舞妓も登場するなど日本の文化、四季、自然と流行をPR。「Jー感覚～きれい、かわいい、気持ちいい」を訴えていた。8つの展示エリアではCGや3Dを駆使した映像で日本企業のイメージを紹介していた。

日本館

日本の国家館。プレショーでは、日中が協力して保護活動を行っている朱鷺(トキ)をモチーフとして、日本の環境活動と未来技術を紹介。パートナーロボットがヴァイオリンを演奏すると一斉にフラッシュがたかれた。未来カメラであるワンダーカメラ、一人乗り自動車i-REALなど、やはり本物は注目を集める。メインショーでは、朱鷺をテーマに、昆劇と能のコラボや歌を交えたミニミュージカルで、日中の関係の深さが演じられた。

万博会場

会場は思いのほかきれいで、中国人のマナーが格別悪いこともなく、ボランティアの接客態度も親切だった。

＜中国は国家の威信を賭け、この大イベントを成功させ、オリンピックと万博を国力のいっそうの増大と世界ポジションの上昇につなげようとするだろう。中国の経済成長が、今後どれくらい持続し、日本が中国との関わりをどのようにしていくのか、いっそうの関心と適切な対応が必要とされる。＞

マイツグループCEO公認会計士 池田 博義氏 「上海を中心とした中国経済の現況と展望」

万博視察の同日夕方、中国で活躍されている池田博義氏の講演をお聴きした。



上海マイツ

池田氏は京都市出身で、大阪、名古屋、東京にも公認会計士事務所を開設。1993年の上海進出後、大連、天津と活躍の場を広げ、現在は広州で事務所の開設準備中。中国のスタッフ360名、取引先1350社にのぼる。

中国経済の行方

中国は成長率8%を保持する方針で、4兆元の景気対策により、高額所得者の消費は落ちず、内陸部の家電消費や自動車・バイクの消費刺激策を講じ、公共投資やアフリカ貿易にも力を入れている。技術革新にも熱心で、汚水処理・ゴミ対策、水質汚染防止、循環経済など省エネ・環境対策は、日系企業参入の余地がある。

中国の特徴

①固定観念が通じない②文化大革命の影響が残っており、おもいやり精神はない③性悪説が前提で、アングロ・サクソン系の考え方④面子は重んじる⑤強烈な学歴社会で、学歴のある若い子を採用すべし、50歳以上は採用しないこと⑥人情はある。

日系企業の成功と失敗

①日本人総経理に権限を与えること②日本に留学し、日本の文化・習慣を学んだ中国人高級管理職が必要③親会社の方ばかりを見る一工場と考えること④中途半端な人脈に頼らず、王道を行く企業であること⑤中国人と遊べる日本人になること⑥経営理念・社訓が浸透していない⑦数字に強い企業であること。

これからは日本の内需というとき、アジア圏を考えた内需として考えるべき。

これからの中国

①国内産業の再構築②法整備と運用③貧富格差の是正④地方保護主義の打破⑤高齢化社会への対応、などの課題がある一方、①政治の安定②海亀族(留学帰国者)のパワー③インフラや新幹線、水処理など環境技術の輸出④先進国の企業が中国に行く時代から、中国企業が先進国に行く時代へ、など明るい前途がある。(文責 黄瀬)

世界最大の都市・上海より鉄路で約2時間、浙江省の省都・杭州を訪れ、日本からの進出企業2社を見学した。

中国八大古都の一つである同市は、国家歴史文化名城に選定され、人口950万人。

産業面での発展もめざましく、上海を中心とする「長江デルタ経済圏」を構成し、ハイテク産業を中心とした日系企業の進出が相次いでいる。

〔6月15日(火) 10:30~12:00〕

美迪亞印刷設備（杭州）有限公司 訪問

（本社：大日本スクリーン製造(株)）

所在地：杭州市蕭山経済技術開発区

代表者：董事長 藤澤恭平氏

設立：2003年9月 操業：2004年10月

資本金：2.8億円（独資）

従業員：102名（内、日本人6名、平均年齢24才）

敷地：23,300㎡（約7,000坪）



当日は末森政人総経理をはじめ、同社幹部総出の歓迎を受けた。

同総経理は当地に進出した理由として、高い経済成長率と交通ネットワークが良い、人材が豊富で採用しやすい、部品の現地調達が可能で高精度の加工会社が多い、市政府や開発区の協力が大きい、などをあげて、今後のめざすべき方向として、成長を継続するため、グローバル・マネジメントをいかに活用していくかが最重要、と述べられた。

主要製品は印刷用製版機（Computer To Plate）であり、まさに心臓部を当工場で生産しており、年々生産台数は伸張しているが、今後については予断を許さないとのことであった。

中国にはロークラスの印刷会社が9000社も存在し、現在もリーマンショックをものともせず成長しているが、価格面では非常に厳しい。現在、単一国家ではCTPの世界一の台数が中国に納入されており、当社も中国でのシェア20%程度でトップ争いをやっている。

今後は当社のライバルは外国メーカーではなく、中国メーカーだとの認識のもと、更なる品質向上とコスト削減につとめていく覚悟、と述べられた。

その後は工場内のCTP生産ラインを見学した。日本国内の工場と殆ど変わらないような整備されたライン、更にはISO9001・14001の認証を取得されたことに加

え5S活動も徹底して全社展開をされていることに驚かされた。また中国人従業員の幹部の方々は日本語を流暢に話されている姿を拝見、これは毎年リーダークラスが久御山工場で組立調整実習等の技術研修を受けると同時にSCREENの経営理念や求められる社員像、仕事の進め方などの教育を受けるとのことで、納得させられた。

短時間ではあったが、操業以来数年で順調に成長され、ハイテク分野での発展をめざしておられる姿に深い感銘を受けると共に、同社の益々の発展を祈りつつ同社を後にした。

〔6月15日(火) 14:30~16:30〕

杭州早川電線有限公司 訪問

（本社：ハヤカワ電線工業(株) 姫路市）

所在地：杭州市余杭区

代表者：総経理 楊煥春氏

設立：1994年8月

資本金：US\$2,230,000（独資）

従業員：1,010名（男性110名、女性900名、平均年齢26才）

日本人2名、直接員960名、間接員50名

敷地：38,000㎡



楊総経理の歓迎挨拶そして会社概要について説明を受けた。同氏はかつて数年間、日本にいたとのことで日本語も大変上手であった。

当社はワイヤーハーネスの生産を主な事業としており現在、家電関係 50%、車載関係 15%、事務機器関係 10%、産業機器関係 10%が納入先内訳である。主要取引先は日本、日系及び中国企業の計100社となっている。材料調達は金額ベースで、日本調達（ハヤカワ電線）が50%、現地調達が50%となっている。

現状はワイヤーハーネスが中心で操業しているが、いずれ成熟化してきた時に備えるべくLEDを新事業の柱にしたいと思っており、この分野に注力していきたい、と述べられた。

その後はワイヤーハーネスの生産ラインを具に見学、多くの若い女子従業員が整然と仕事に励んでいる姿、そして工場内いたるところに5S活動の啓発ポスターが貼られている通り、5Sの行き届いた工場に感心した次第、そして全員で感謝の拍手を送り同社見学会を終えた。

京都工業会ニュース No.364

■2010年7月22日発行

■発行——社団法人 京都工業会

☎615-0801 京都市右京区西京極豆田町2

TEL.075(313)0751 FAX.075(313)0755

U R L : <http://www.kyokogyo.or.jp>

E-mail : info@kyokogyo.or.jp